

環境影響評価方法書説明会（１回目） 議事概要

日時：2025 年 7 月 25 日(金) 19 時 00 分～21 時 05 分

場所：土山開発センター大集会室

1. 概 要

＜出席者＞

- ・近江バラス：松下社長、子安部長
- ・ハ°シフィックコンサルタンツ：藤田、瀧瀬、西脇、鈴木

＜進行＞

- ・開 会 19：00～
- ・事務者挨拶 19：02～
- ・事業者説明 19：04～19：50
- ・質疑応答 19：50～21：03
- ・閉 会 21：05

2. 説 明

＜事業者側＞

- ① 事業計画の概要（ハ°シフィックコンサルタンツ瀧瀬）
- ② 方法書の概要（ハ°シフィックコンサルタンツ西脇）

3. 質疑応答

(質問) 水質検査項目は生物化学的酸素要求量（BOD）だけですか。

(回答) 河川の水質汚濁の指標はBODであることから、環境影響評価においては、BODを対象に調査・評価をする方針です。

(質問) 甲賀市では飲料水を野洲川から取水していますが、水道の水質は安全ですか。

(回答) 最終処分場の排水基準は、下流側における水道取水に問題が生じないよう設定されています。また、展開検査による受入廃棄物の管理の徹底や浸透水のモニタリングにより、その基準を遵守して維持管理していきます。集水した浸透水は調整池に流入するので、万一、浸透水に問題が生じた場合は、浸透水を調整池に閉じこめる対策が可能です。

(質問) 岡山県で PFAS による地下水汚染が問題になっています。その原因は管理型最終処分場で浸出水の処理に用いた使用済み活性炭の置き場ではないかと言われています。岡山の例では、どのように対応したのか教えて頂きたい。

(回答) 岡山の例では、埋め立てた活性炭と周辺の土を取り除いたと認識しています。取り除いたものは、汚染度によって分別し、産業廃棄物として焼却処分されていると思います。

(質問)施設の供用後は定期的なモニタリングが実施されますが、その結果、環境影響評価の予測値を上回った場合には、どのように対処されるのでしょうか。

(回答)環境影響評価では、環境への影響を予測し、予測値が基準を超えた場合は環境保全措置を追加し、予測値が管理基準値以下になるようにします。また、供用開始後は、法令に定められた手法で定期的なモニタリングを行います。万一、浸透水の水質が基準値を超過した場合は、浸透水を調整池に貯留して河川への放流を停止し、その間に原因となる廃棄物の除去などの対策を行います。また、必要に応じ、仮設の水処理施設の設置等について検討します。

(質問)水質のモニタリング結果を事業者のホームページに掲載して頂きたい。定期的な検査結果の推移や水質基準との比較などを示せば、市民の方も安心すると思います。

(回答)水質のモニタリング結果の公表については、検討し、実施する予定とします。

(質問)水質検査は、事業者だけではなく、第三者の立会いのもとで実施して頂きたい。

(回答)水質等の検査は、環境計量士という国家資格者が所属し、環境計量証明事業の登録を行った業者が行います。さらに、滋賀県による抜き打ち検査もあると考えており、透明性を確保したうえで実施します。

(質問)1日あたりの埋立計画や覆土計画を教えてください。

(回答)1日あたりの埋立量は、廃プラスチックが100 m³、ガラス陶磁器くずが75 m³、がれき類が75 m³、合わせて250 m³を計画しています。覆土量は廃棄物の1/3程度としています。覆土材には受入れ残土だけでなく、工事で発生する残土を利用し、外部からの搬入車両を少なくする方針です。

(質問)粉塵等の飛散防止のための散水計画について、教えてください。

(回答)散水には散水車を用いる予定です。使用する散水車の台数については、今後検討します。

(質問)大澤地区では、大きなトレーラーが県道岩室北土山線の歩道のない区間を通る計画になっています。歩道の設置、あるいは運搬ルートの変更を検討して頂けないですか。

(回答)県道への歩道設置に関しては、民間企業が自由にできるものではないため、約束はできませんが、大澤区の皆様と相談しながら交通安全の対策を検討します。

(質問)関係車両の走行ルートについて、国道1号の前野交差点から入るルートを検討していますか。

(回答)搬入車両の大部分(16台程度)は、新名神高速道路の甲賀土山インターチェンジから県道岩室北土山線を経由する計画です。残りの4台程度については、主に地元から搬入される小型車両を想定しており、主に国道1号を経由して搬入されると想定しています。

国道1号の土山支所交差点から南下するルートは、沿道に保育所等の施設があることから、避けてほしいという話を頂いています。今後も地元と協議をしながら計画していきます。

(質問)搬入ルートについて、大澤地区だけに負担を強いるのではなく、南・北土山の市街地にも負担を分担してもらいたいのかと思います。新名神高速道路の甲賀土山インターチェンジから大澤地区を経由して搬入した車両は、帰りは北上して南・北土山の市街地を経由して国道1号を通り、前野交差点から甲賀土山インターチェンジに入るルートについて、検討して頂きたい。

(回答)甲賀土山インターチェンジと事業地を繋ぐ立地条件から大澤地区を通らせて頂くを得ないと考えています。大澤区の皆様と相談しながら交通安全対策を検討します。

(質問) 工事中の伐採木などを搬出する車両は、どのような走行ルートになりますか。

(回答) 工事中の搬出ルートは、供用後の搬入ルートと同じルートを想定しています。

(質問) 工事車両の台数について、事前に大澤地区に計画を示して頂きたい。

(回答) 工事車両の台数については、工事の時期によって違いますが、供用後の搬入車両と同じ 20 台を超えないようにします。必要であれば、工事の進捗や車両台数の見込みについて、事前に大澤地区に示します。

(意見) 道路を一部改良する必要があるため事業費がかかり、運搬距離も長くなりますが、大澤地区も土山町の市街地も通らずに事業地に行くルートが 1 つあるので検討頂きたい。

(質問) 安定型ではなく、管理型処分場に変更して頂けないか。

(回答) 現時点では、安定型処分場として計画しています。

(質問) 埋立容量について、昨年度の説明会では約 190 万 m^3 、配慮書では 230 万 m^3 、そして今回の説明では 215 万 m^3 と変化しています。なぜですか。

(回答) 調整池の容量計算などの設計の熟度が上がり、それにより埋立地と調整池との取り合いが変わり、埋立容量が変更になりました。今後も許認可手続きや環境影響評価の結果などで、埋立容量が変更になる可能性があります。

(質問) 埋立容量 215 万 m^3 は他の施設と比べると、大きな施設ではないですか。

(回答) 最終処分場の規模としては、小さいもので数十万 m^3 から、大きなものでは 400 万 m^3 を超えるものもあります。標準的なものよりも少し大きい規模の施設という認識です。

(質問) 大気質調査地点の南・北土山集落について、具体的な位置はどこですか。

(回答) 南・北土山集落の調査地点については、国道 1 号の南側の旧東海道に沿って連続する集落の代表的な 1 カ所を選ぶ予定です。調査機材を設置する土地の借用が必要となるため、詳細な位置については検討中です。

(質問) 埋立て完了後の圧迫感が気になるので、埋立完了時の中心線の縦断図を見せて頂きたい。

(回答) 本日はデータを用意していないので、別の機会に示させていただきます。

(質問) 田村川を対象とした人と自然との触れ合いの活動の場の予測方法について、景観の視点が重要だと思います。景観に変化が生じるのであれば、フォトモンタージュなどで示して頂けないですか。

(回答) 田村川は周辺よりも低いところを流れており、川の両側には河畔林があります。そのため、田村川から事業地は見えないと考えており、景観の評価は対象外としています。

(質問) 計画地の地質状況を教えてください。

(回答) 計画地の地質については現在調査中のため、報告書がまとまりましたら結果を報告します。

(質問) 工事で発生する土砂は敷地内に置くのですか。

(回答) 場内道路設置のために一部切土を行いますが、土堰堤などの盛土も行うため、基本的に土砂の収支バランスが合うように検討しています。残土が発生した場合は、場内に仮置きして、覆土材として利用する計画です。

(質問) 悪臭対策について説明がありましたが、どのような悪臭物質を想定していますか。

(回答) 法令で悪臭への対策が義務付けられているため、覆土による対策を記載していますが、特定の悪臭物質は想定していません。受け入れる廃棄物の大部分が、建築物の解体で発生する瓦やがれき類、ガラス陶磁器くずおよび廃プラスチック類であり、これらの廃棄物は中間処理施設で異物を選別したうえで、処分場に搬入されます。また、展開検査において悪臭を発する廃棄物が確認された場合は、受入れを拒否します。

(質問) 受け入れる廃棄物のうち、滋賀県内からの割合はどの程度を想定していますか。

(回答) グループ会社であるジェネスが所有している処分場の実績として、概ね 10%程度が滋賀県内の廃棄物であることから、同程度を想定しています。ただし、その時点での状況によって変動する可能性があります。同様に、関東地方からの受け入れ割合は、2割程度と想定しています。

(質問) 土山町だけではなく、水口町や甲南町などの下流側地域でも説明会の開催を検討して頂きたい。

(回答) 今回は、事業地のある土山町で説明会を開催し、下流地域に住まわれている方には、説明会の開催を案内する形としました。今後開催する説明会の周知方法については、検討します。

以上